

令和4年度 園評価書

園番号 42 園名 静岡市立蒲原西部こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている、C : あまりできていない、D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
自分が好き 友達が好き 心豊かな蒲原の子	「楽しい」を感じよう つながろう	好きな遊びを楽しむ中で、「楽しい」を感じ、繰り返し遊ぶ	○子ども達が「楽しい」を感じ遊びが継続していくよう毎日の振り返りの中で、遊びを伝え振り返りを行うことで、他クラスの遊びが分り遊びの拠点を作るなど環境作りを皆で連携して作っていった ○振り返りのノートに遊びの環境図を記入し、園庭をどう使うか、異年齢でどうつながるかの話し合いを進めることができた。(△振り返りでは遊びの様子の報告になりがちだった) ○遊びのねらいをボードに記入することで、毎日の保育を意識して行うことができた	A	A	・子どもが遊びの中で何を「楽しい」と感じているのか、職員間で共通理解することが大事である ・毎日忙しい中振り返りの時間を確保し、やり方を工夫しながら継続して取り組んでいると思う。遊びの中で達成感や満足感を味わえているか、「楽しい」につながっているかを振り返ることで、子どものやりたい遊びが見えてくるのではないかと	・個の好きな遊びの楽しさを十分受け止め、一緒に遊びながら、子どもが遊びのどこに「楽しい」と感じているのか、満足感を味わえているのかを具体的に押さえ、職員間で共通理解していく ・振り返りの視点を絞り、環境や保育者の援助は「楽しい」につながっていたか、再構成や明日につながる遊びのポイント(どうしたいか保育者の思いやねらい)を検証していく ・少人数を活かし、異年齢での関わりやつながることを意識し、下の子の面倒をみたり、上の子にあこがれたり、自分の思いを伝えながら関わり合う経験を大切にしてい
		自分のやりたいことを見つけ、工夫したり、試したりして遊ぶ	○自然物や手作り素材など、子どもの興味や年齢に合わせて、遊びが広がる素材を用意し提示するなど環境を工夫し、新しい物を発信していった ○廃材を用意しておくことで自分の作りたいものをイメージし描いたり作ったり試したりと工夫してじっくり遊ぶ姿が見られる。イメージした物が形になり出来る喜びが感じられた △さらに教材研究や教材を学ぶ機会を作っていきたい	A	A		
		一緒に遊ぶ中で思いを伝えたり、友だちの良さを認めたりする	○保育者が子どもの思いを受け止め、友だちにも目を向けられるよう代弁しながら仲立ちの仕方を工夫していることで、自分の思いを伝えることができてきている ○言葉の選び方を知らせたり、どうしたら伝わるか声掛けの仕方を試行錯誤しながら友だちの思いに気づくよう丁寧にすることでトラブルが減り一緒に遊ぶ姿が見られ友だちに優しくしたり友だちの良さに気づけてきている △色々な人との関わりが持てるように異年齢の保育を見直してい	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明			園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における 教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	乳幼児期に育てたい姿を踏まえ、年齢による発達の違いを理解し、一人一人の発達や個の実態に合わせて援助する	○途中入園の受け入れをするにあたり職員体制の工夫や共有するための話し合いの時間を持つようにした。 ○歳児のねらいや育てたい姿、経験させたい事などを踏まえ、一人一人の発達や個の実態に合わせて援助するようにしている △進級に向けて、年齢ごとの保育の抑え(個の育ち、課題など)確認しあい見直しを持っていく	B	B	・子どもの具体的な表れから、この子にとっては何が必要か、個々の子どもの支援、目指していくねらいなど、10の姿に沿って捉えていくことが大切である。ねらいに強引にもっていくとせず、全体のねらいを踏まえつつ、一人一人のねらいを大切にしてい	子どもの具体的な表れからその子に何が必要か、個々の子どもの支援、目指していくねらいを職員間で話し合い押さえていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	家庭との連携を図りながら、一人一人の生活リズムを大切に、安心して過ごせるようにする	○朝の受け入れ時、家での様子を丁寧に聞き取り、個々の状態に合わせて配慮を行っている ○個別の面談や連絡ノートを通して生活リズムの把握ができ、家庭と連携し生活リズムを整えることにつながった	A	A	・今日の遊びを自分(保育者)がやって楽しかったかと自分が感じる事が大事である。	引き続き受け入れ時の聞き取りを丁寧に、個々の状態の把握をしていく。連絡ノートや個別面談を通して家庭との連携を図りながら一人一人の生活リズムの把握に努める
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもが遊びのどこに面白さを感じているのか読み取り、遊びが続き環境作りや援助をする	○子どもが遊びのどこに面白さを感じたり、やりたい遊びを楽しめるよう必要な物を用意し環境を工夫している △環境図を取り入れた振り返りを行うことで、どこの学年がどこで遊んでいるのかわかるようになったが、ノートの活かし方、明日につながる遊びの準備に課題が残る △月の反省で遊びの振り返りを行い次月に向けての遊びにつながっていたが、ポイントを絞って話しやすいよう反省の用紙など工夫していく	B	B	・遊びのねらいにとらわれ易いが、子どもの思いと保育者の思いにズレが出てきてしまうことが多いので、子どもの思いに添ったねらいを考えていくことが大事だと思う	個や歳児ごと、どう遊びが繋がっていったのかわかるように、学年別に色分けする等、振り返りノートの活かし方を工夫していく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	ヒヤリハットや毎月の避難訓練・不審者訓練を通し、反省評価を次月に生かす	○訓練時の子どもの姿から災害時の避難の仕方が身についてきていることを感じる。 △反省は確実に、課題共有しPDCAにつなげる △園のおかれている状況を考えているような設定の訓練をしているがその都度課題が出てくるので常に意識しながら行っていく △保育者の危機意識をさらに高めていく。	B	B	・危機管理では、危機意識を高めていく中身が大切になってくると思う。職員一人一人が、子どもが一人いなくなったらどうするか、校長、教頭がいなかったらどうするかと危機意識を持って取り組むことが大切である	いろいろな設定の場面を想定した訓練を行う。想定に対し安全に子ども達を避難させることができるのか確認しあい、どのような行動をとったのか危険意識を持ち取り組めるように反省を活かすようにする
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	体を動かす遊びや食育を通して、健康に過ごす習慣や個人差に配慮しながら年齢に応じた基本的な生活習慣を身に付けていく	○手洗いの歌を歌い、乳児から興味を持って手洗いができるよう指導していった。保健の約束を毎月知らせ、手洗い、うがい、鼻のかみ方など風邪の予防などに務めた。 ○体を動かす遊びを発達を踏まえて幼児会議、乳児会議にて確認しあい、取り入れていった △基本的な生活習慣の習得は個人差もあるが、生活面での歳児ごとのねらいをもつことが必要。職員会議でクラスの様子を報告し、共有できるようにする	B	B	・来年、年長児が1名となるが、何を大切にしていけるのか、職員間で話し合い進めていってほしい。縦の関係を築きその子の育ちを押さえていく。自分らしさを伸ばせる取り組みを、ぜひ生かしていってほしい	基本的な生活習慣や食育など生活面での歳児ごとのねらい(押さえ)を確認し、次月の会議で経過を報告しあう
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	ケース会議を行い、個の状態に応じた指導内容や方法を職員間で共有して指導する	○個に合ったサポートプランを作成し家庭や専門機関と連携し実施している。視点を絞り記入する事で伸ばしたい所がわかりやすく、丁寧にやる事で色々な面で自信が付き成長が感じられる △サポートプランや各クラスにおけるケースの検討は時間の確保に課題があるが、園全体で関わる意識がもてるよう今後も継続していく	A	A	・廃材を使つての製作もまず大人が作ってみると必要な物が見えてきて、自分が準備した環境がやりにくかったかどうかという気づきも出てくる。保育者が子どもになりきり、子どもと一緒に遊び、子どもの視線に立つことで子どもの思いに寄り添い、子どもが新たな経験ができていくのではないかと	ケース会議を定期的に設定し、個に応じた必要な支援を職員間で共有する
5 組織運営	(1)組織体制の充実	全体的な計画に基づき、自分の分掌に対して責任を持ち、年間計画やねらいに沿って企画、運営を行う	○会議で分掌ごと振り返り、来月やる事が明確になった。年間計画に基づいて実施できている △行事等に係る文化的な分掌は、園全体で共有することなので、企画書のみならず経過や進捗状況の報告、役割分担等細かな共有が必要だった。(企画書ファイルを用意) △担当人数の検討や行事によって兼ねられるもの等の見直しをし、職員の数に見合ったやり方を考えていく	B	B	・オタマジャクシの交流など小学校との関わりから、子ども達はいっぱい刺激をもらい、職員も授業参観や公開保育などお互いが見にいかせてもらうことで、大切にしている所を発見したり学びあうことができたと思う	役割分担等声をかけあい細かな共有を図り進めていく。企画書ファイルを用意し、いつでも確認ができるようにする。職員一人一人が自分の分掌に責任を持って、協力しながら進めていく
6 研修	(1)研修体制の充実	研修テーマに基づき手立てに合わせ、環境構成や援助を探るとともに、園の教育保育について語り、学びあう	○研修主任を中心に、年間計画に沿った研究保育や園内研修が実施された。写真や動画を用いて遊びを振り返りながら話し合うことにより、子どもの内面や保育者の意図がわかり学びのポイントが出され共有できた。また、研修日より発行され、学びを振り返り、確認することができた △研究保育後の自分の保育や子どもの変化等の共有の時間の確保と、園内研修にできるだけ多くの方に参加してもらえる工夫を考える	A	A		研究保育後の自分の保育や子どもの変化等を職員間で共有する時間を確保する。園内研修にできるだけ多くの職員が参加できるよう工夫し、学びの機会を増やしていく
7 教育・保育環境 整備	(1)教育・保育環境の充実	明日も遊びの続きを継続できるように一人一人の発達や興味に応じた遊びの環境や教材を用意する	○廃材や素材など子どもの興味を見ながら何が必要か探り、すぐ使えるよう環境を用意していった。製作コーナーが充実してきた ○悩んだ時に発信できる場(打合せ)があったので、相談しながら準備ができた。環境図があったので意識できた △年齢や発達をおさえ教材の使い方を工夫したり子ども達に道具の使い方を知る機会を取り入れていく	A	A	・近隣園との交流から初めて他園に友達ができたり、園外保育に出かけることで出会いが広がった。小学校との交流や子育て支援センターとの交流を来年も引き続き大切にしていきたいと思う	年齢や発達をおさえ教材研究を行う。教材の使い方など学び合う機会を作る。子ども達に道具の使い方を知らせていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	日々の子どもの育ちや良さを保護者に伝えたり、保護者が子どもの成長に気づき、子育ての喜びを感じられるよう務め、保護者との信頼関係を築く	○連絡ノートや日々のボード、クラスだよりで子どもの様子を伝えている。写真等で遊びの様子を載せているので、伝わりやすく楽しみに見てくれているようだ ○懇談会で園での様子を伝えたり、家での様子や保護者の思いを聞くことができた。参加会を通して子どもの成長を伝えることができた △保護者への伝え方を再度検証し改善していく。ボードが見れなかった保護者に内容を後で見れるようファイルにのせておいたらどうか	B	B		・保護者に子どもの育ちや教育・保育の意図を理解してもらうため、保護者が読みたくするようなお便りを発信する。 ・迎えに来れない保護者へのフォローを検討する ・個人面談は必要に応じて計画する
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣の小学校や園との交流・公開保育を行い、自園の取り組みを発信したり、情報交換や連携を図る	○コロナ禍であったが、オタマジャクシを通じて、年長児は小学校へ行かせてもらう機会を多く持たせていただき、1年生、5年生との交流が貴重な経験になった ○8月に小学校の先生が複数保育参観してくださった。園からも小学校の授業参観に参加させていただいた ○東部こども園や由比こども園との交流を持つことができた。交流の在り方を検討する	A	A		引き続き年長児を中心に小学校や近隣園との関わりを持っていくが、全職員が自分ごととして交流の在り方を探っていく。近隣園との交流も計画していく。アプローチカリキュラムの見直しを行う
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	おしゃべりサロンの実施、支援センターとの交流など地域との関わりを持つ。地域版お便りを発信し、地域の情報を得ながら地域の文化などを取り入れていく	○地域の方ともしっかり話ができるよう支援センターに職員が毎月行かせていただいた。行かせていただくことで学ぶことも多く、支援センターの方に自園の公開保育に来ていただくなど交流を持つことができた ○交流館や児童館に園だよりを貼らせていただいた。児童館に年長児が何回か行かせていただき、製作を楽しんでくれることができた △地域とつながる方法を探っていきたい	A	A		引き続き、支援センターを利用する地域の親子と交流したり、地域とつながる方法を探っていく